

「交通安全計画」における目標の達成状況について

[事故統計関係資料提供 栃木県警察本部]

1 評価基準について

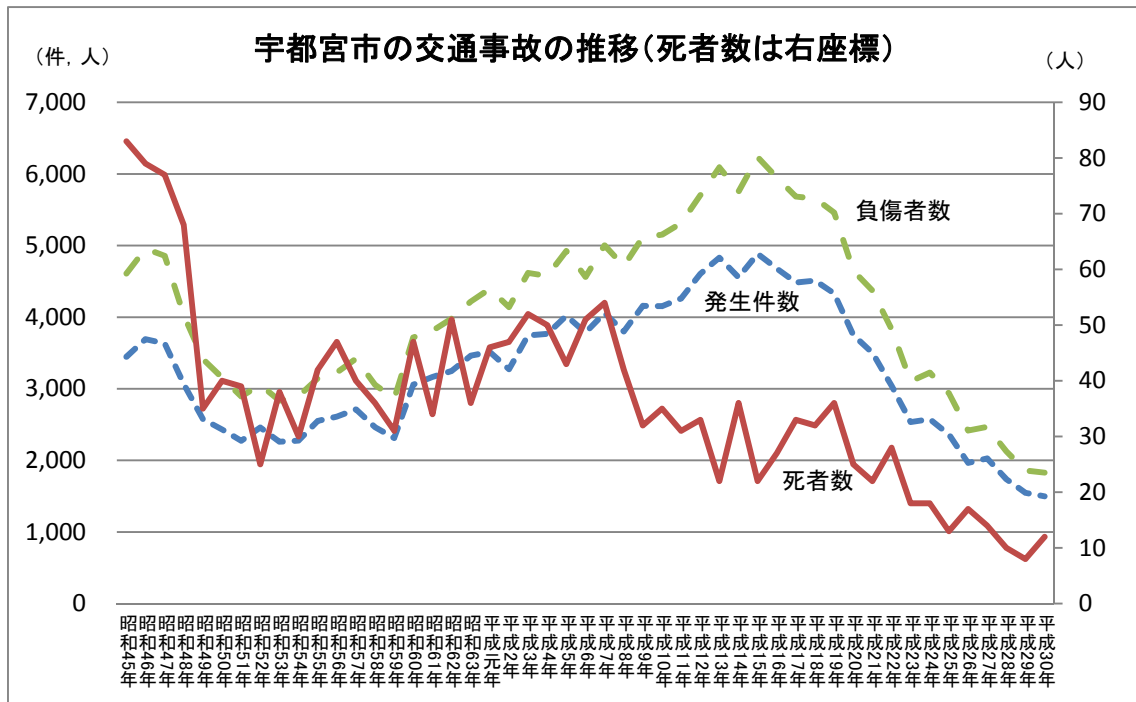
評価の基準について、下記のとおりとする。

	90%以上	◎：達成している
目標に対する達成率が	70%～90%未満	○：概ね達成している
	70%未満	△：達成していない

2 計画の指標の達成状況について

指標名	現状値 (平成27年)	平成29年	平成30年 (対前年比)	目標値 (平成32年)	達成率 評価
交通事故死者数	14人	8人	12人 (4人)	10人以下	83.0% ○
交通事故負傷者数	2,467人	1,857人	1,828人 (▲29人)	1,900人 以下	103.9% ◎
交通事故発生件数	2,028件	1,548件	1,497件 (▲51件)	1,600件 以下	106.9% ◎

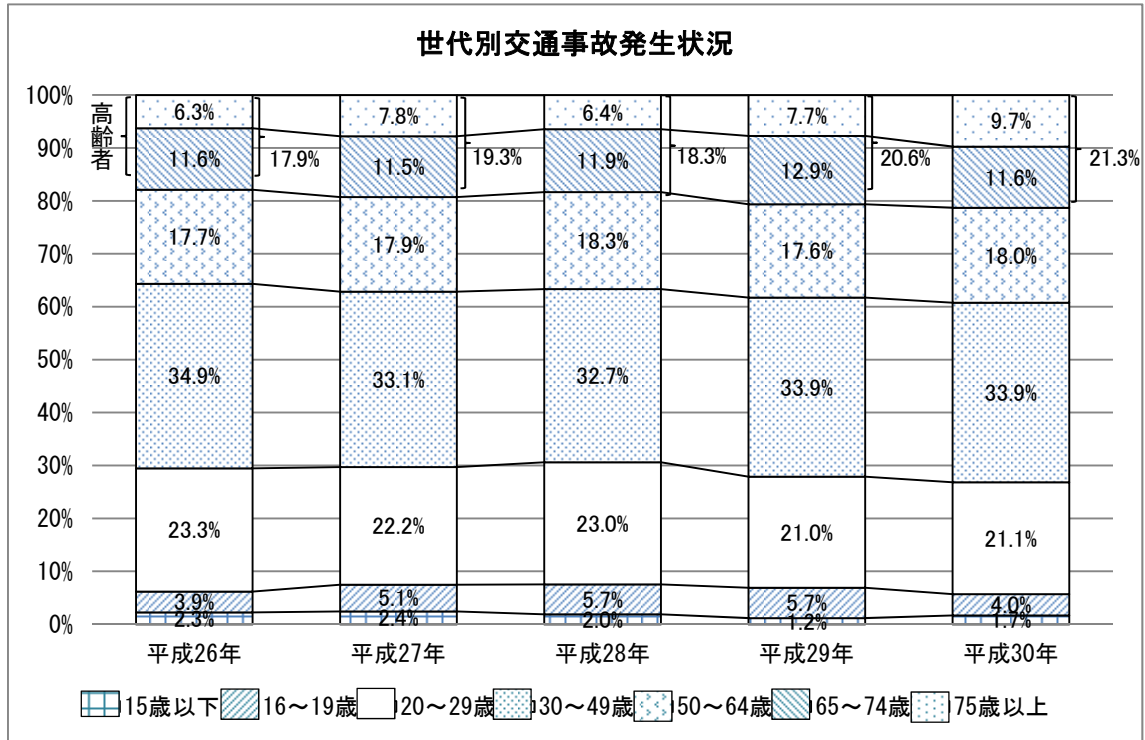
【参考① 宇都宮市の交通事故の推移】



- ア 死者数 12人、過去最多83人(S45)の約7分の1
- イ 負傷者数 1,828人(過去最小値)、過去最多6,236人(H15)の約3分の1
- ウ 発生件数 1,497件(過去最小値)、過去最多4,887件(H15)の約3分の1

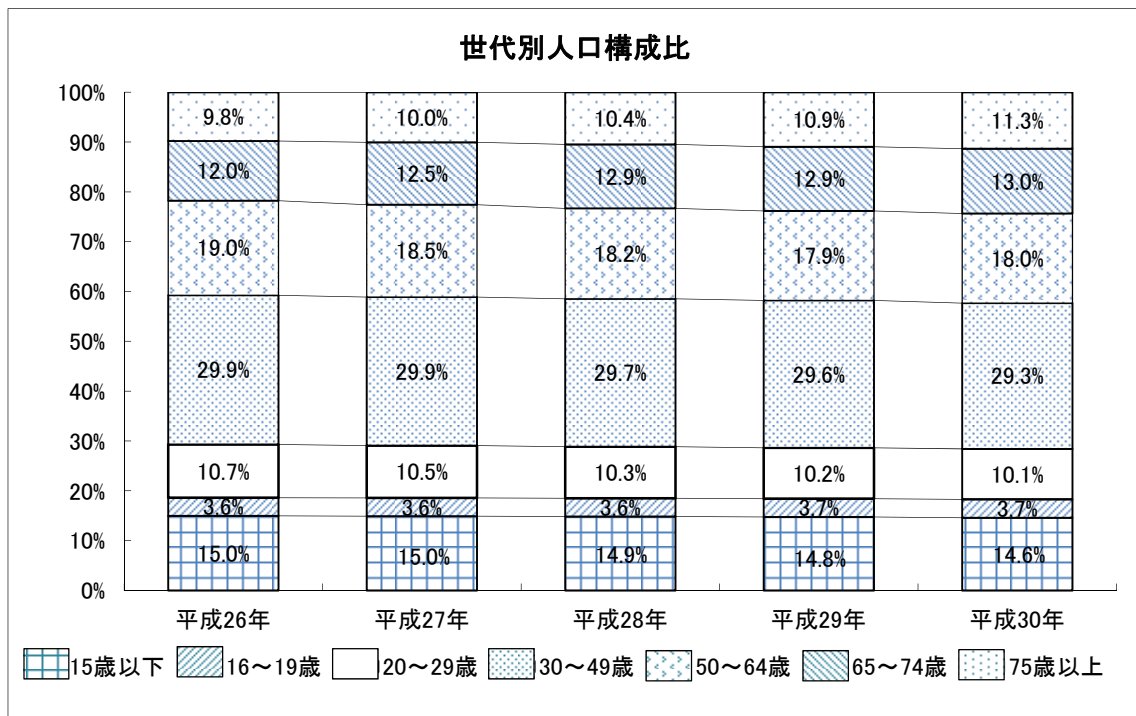
【参考② 世代別交通事故発生状況】

第1当事者の世代別の割合では、高齢者（65歳以上）の占める割合が増加傾向となっている。



※ 第1当事者・・・交通事故に関係した者のうち、過失が最も重い者をいい、過失同等の場合は被害がより軽い者をいう。

(参考)



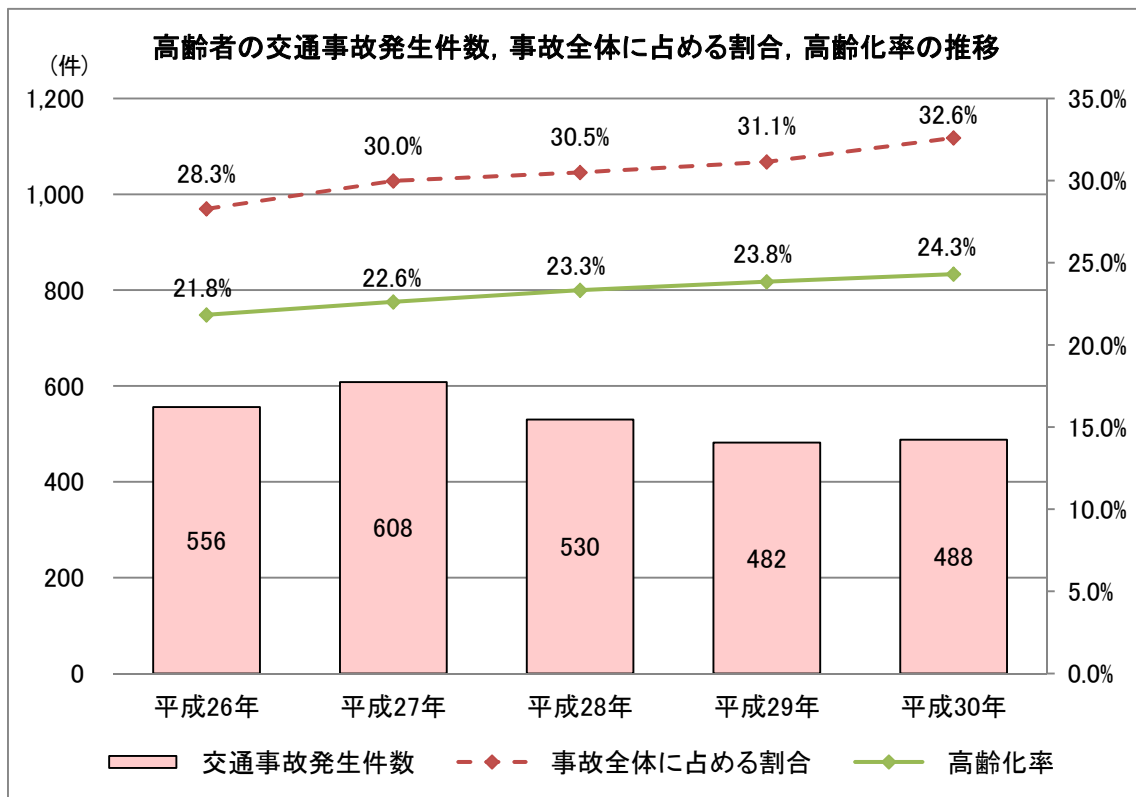
3 「横断的かつ重点的に取り組む視点」の成果指標の達成状況について

(1) 高齢者の安全確保に係る成果指標

指標名	現状値 (平成27年)	平成29年	平成30年	目標値 (平成32年)	達成率 評価
高齢者10万人あたりの 高齢者が関係する 交通事故発生件数	519件	388件	385件	430件以下	111.7% ◎

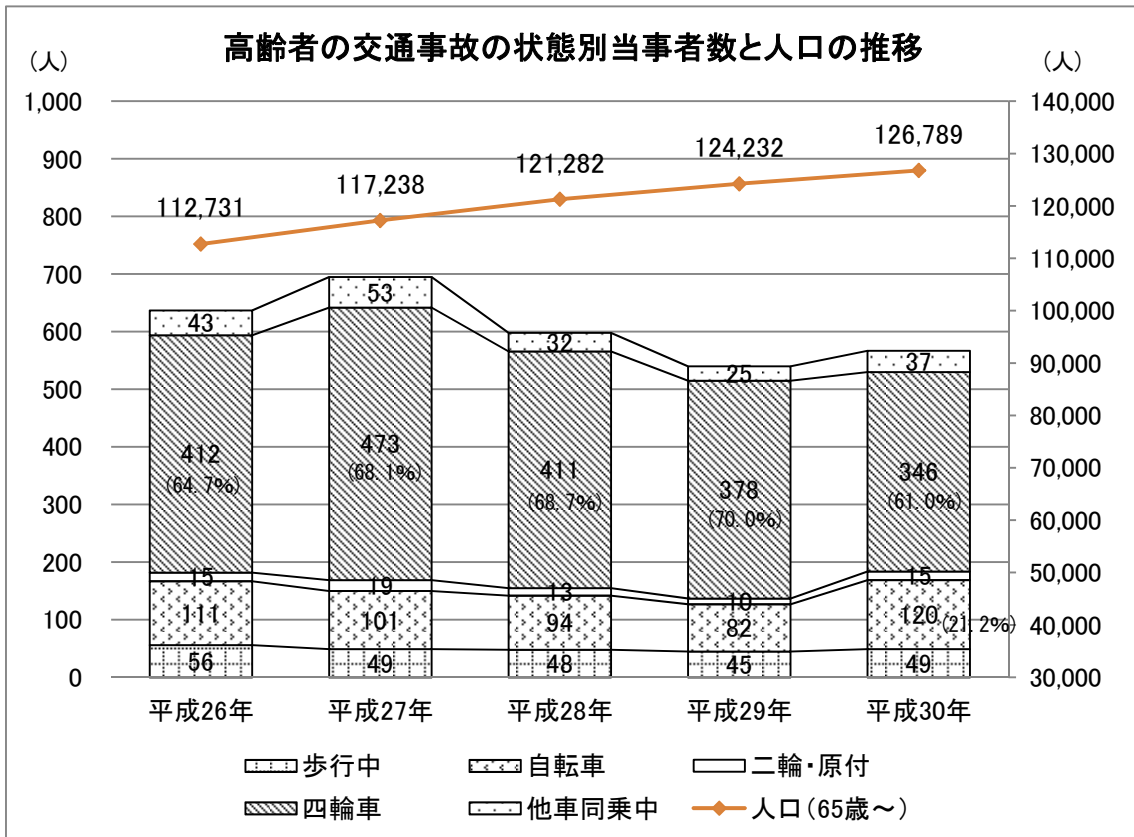
【参考① 高齢者の交通事故発生件数の推移】

交通事故発生件数は、総じて減少傾向にあるが、高齢化率の上昇とともに、事故全体に占める高齢者の割合は増加している。



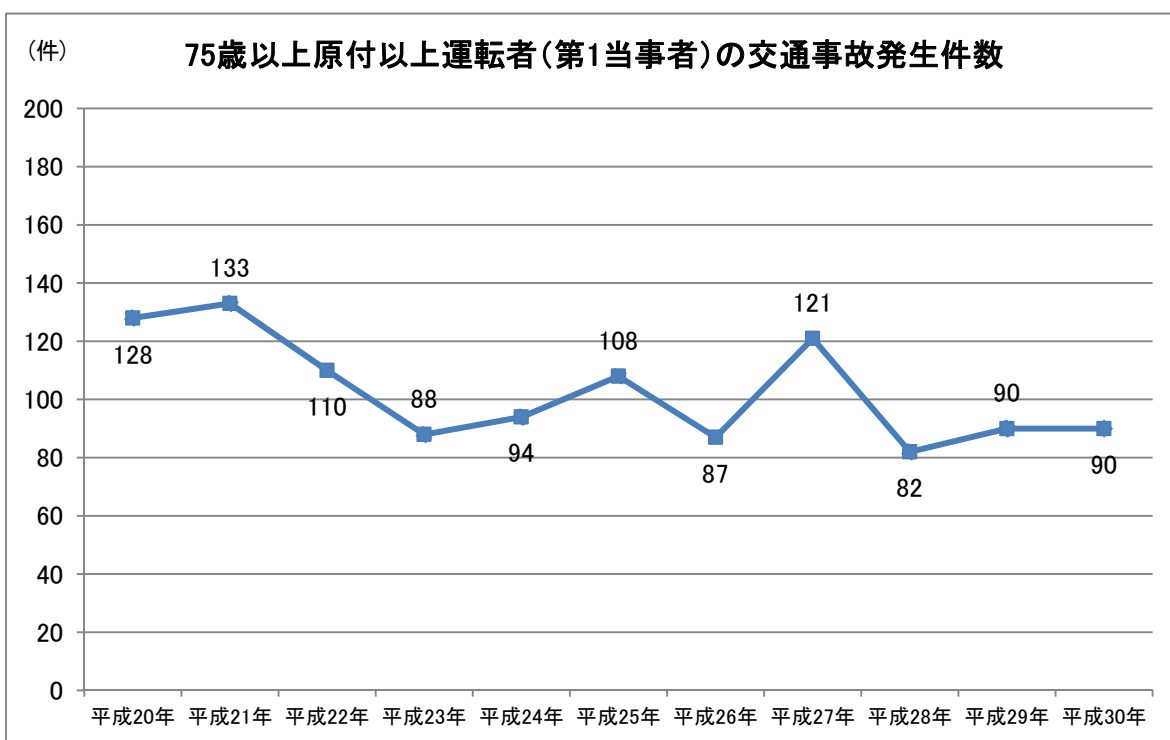
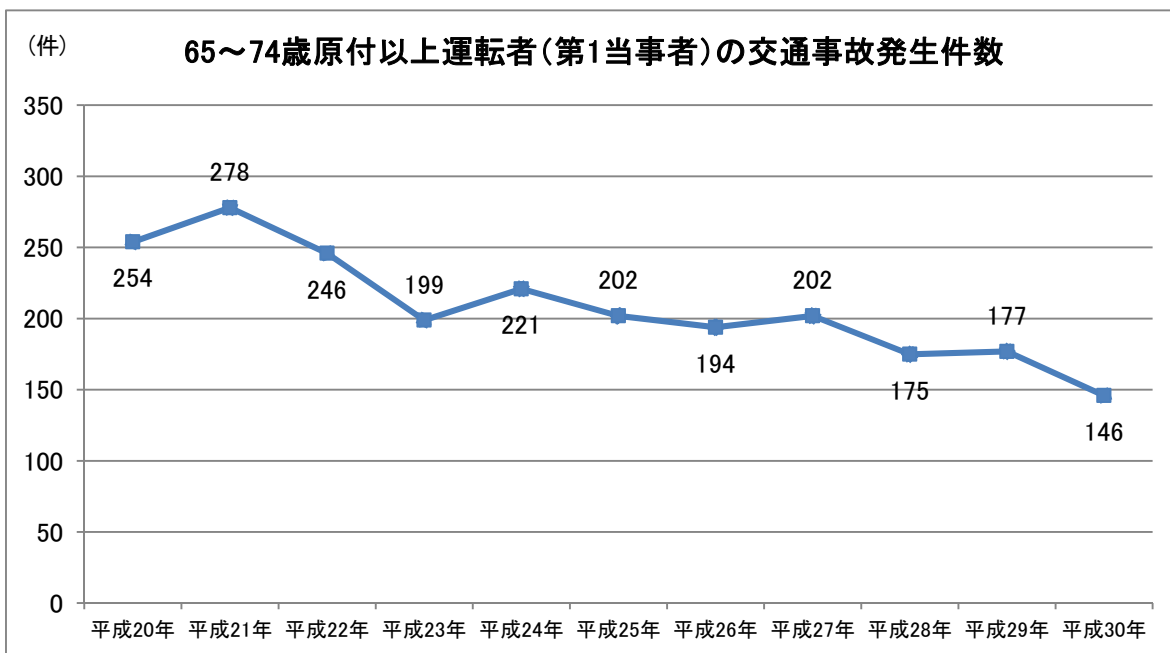
【参考② 高齢者の交通事故の状態別当事者数と人口の推移】

人口は増加しているが、当事者数は総じて減少傾向にある。状態別では、四輪乗車中が約6割、自転車乗車中が約2割を占めている。当事者数では四輪乗車中は減少傾向であるが、自転車乗車中は前年と比べ増加となった。



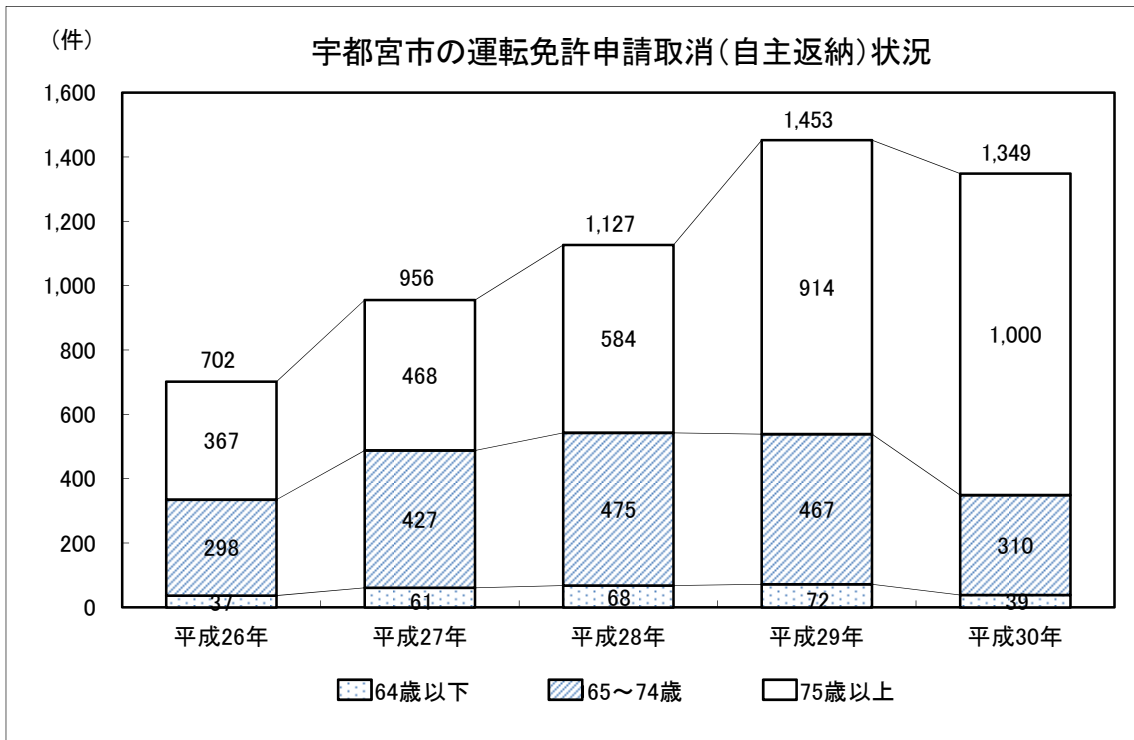
【参考③ 高齢運転者（第1当事者）による交通事故発生件数】

高齢者による原付以上運転者の交通事故は、65歳から74歳までは減少傾向にあるが、75歳以上は平成23年以降、横ばい傾向にある。



【参考④ 宇都宮市の運転免許申請取消（自主返納）状況】

75歳未満の運転免許自主返納件数は減少したが、75歳以上は増加傾向にある。

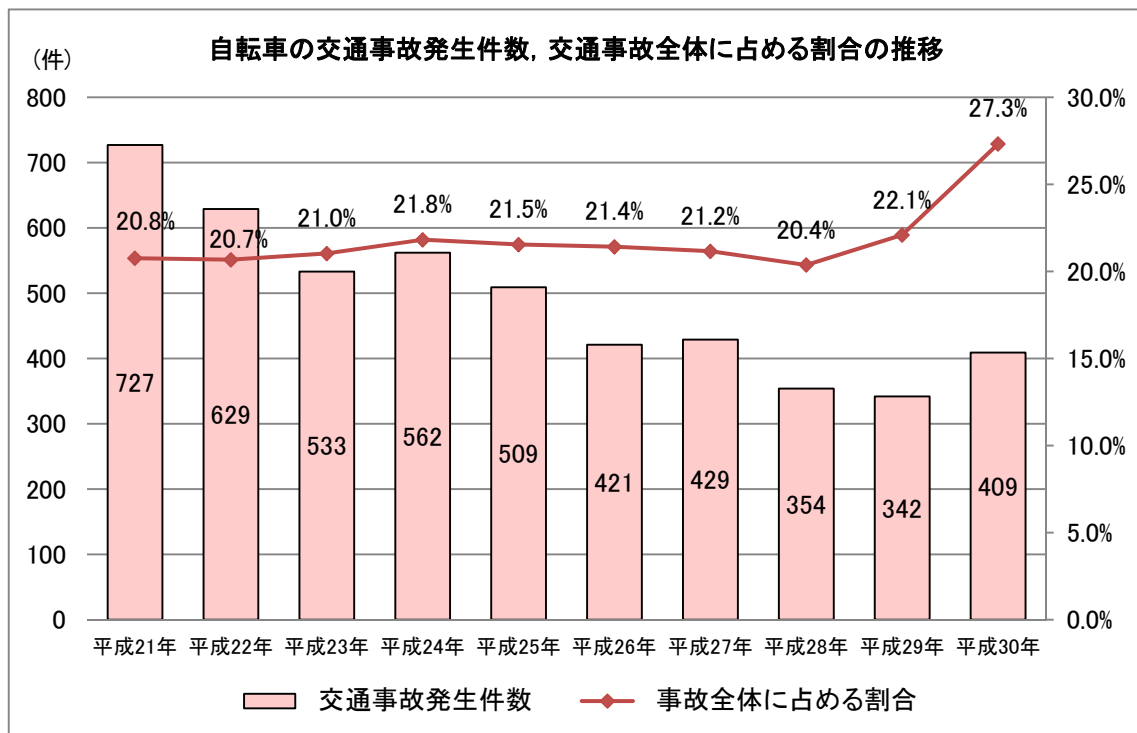


(2) 自転車利用者の安全確保に係る成果指標

指標名	現状値 (平成27年)	平成29年	平成30年	目標値 (平成32年)	達成率 評価
自転車に関する交通事故発生件数	429件	342件	409件	320件以下	78.2% ○

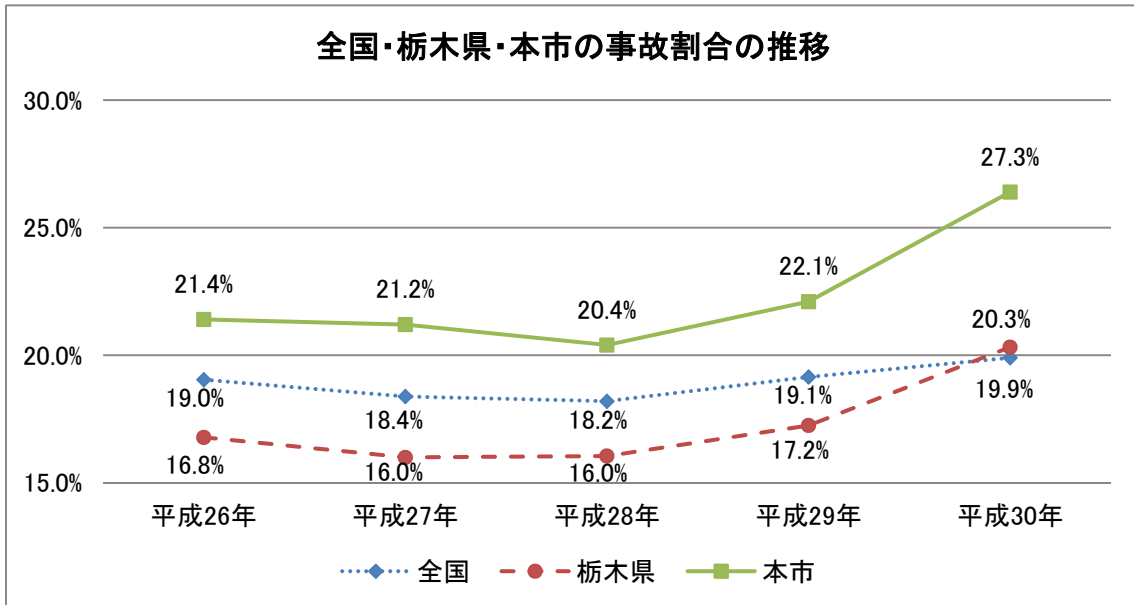
【参考① 自転車の交通事故発生件数の推移】

自転車の交通事故発生件数は、減少傾向であったが、平成30年は増加した。また、平成30年の事故全体に占める割合は、3割弱まで上昇している。



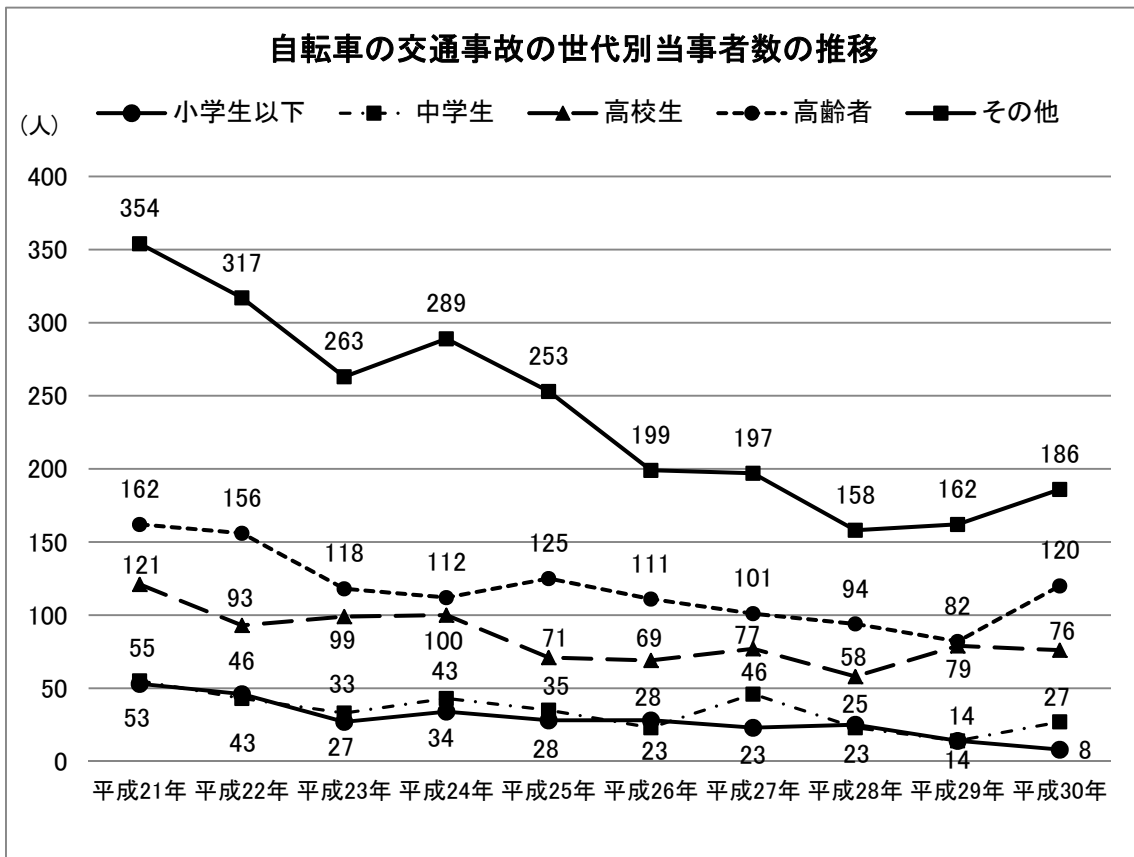
【参考② 自転車の交通事故の事故全体に占める割合の推移（国・県との比較）】

交通事故全体に占める割合は、国・県の割合に比べてやや高い。また、国・県・市ともに、平成30年の割合は増加した。



【参考③ 自転車の交通事故の世代別当事者数の推移】

自転車の交通事故当事者は、10年前と比較し全ての年代で減少傾向にある。特に、小学生、中学生の順で減少率が高い。また、中学生と高齢者の当事者数が前年と比較して増加した。

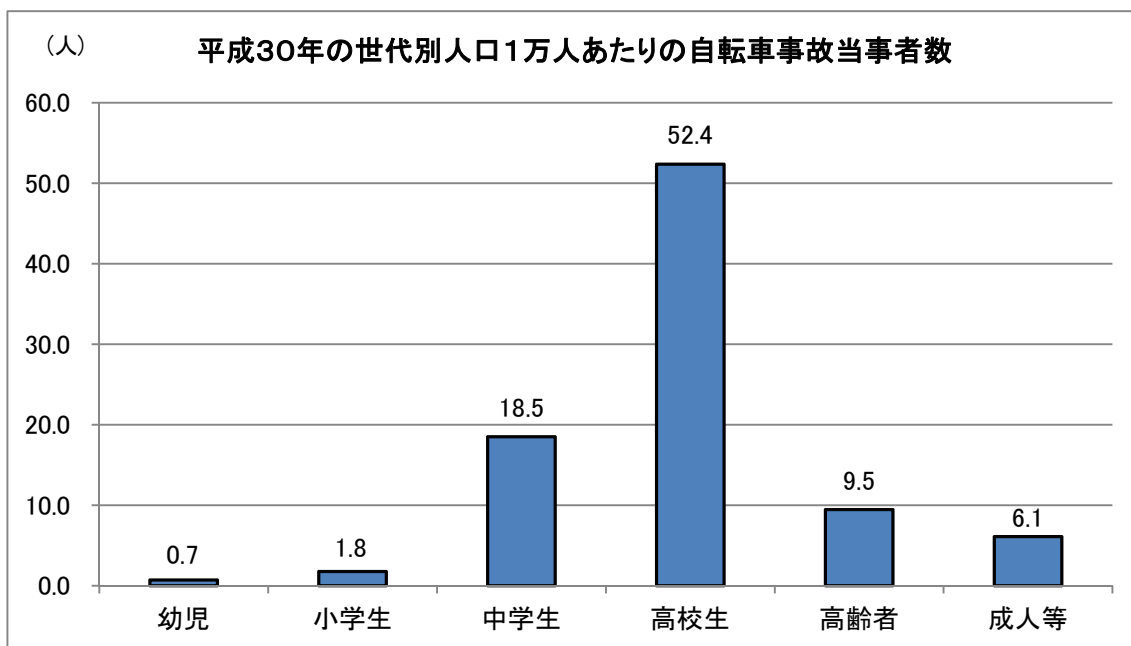


※ H21 から H30 の世代別当事者数の減少率

小学生 84.9% 中学生 50.9% 高校生 37.2% 高齢者 25.9% その他 47.5%

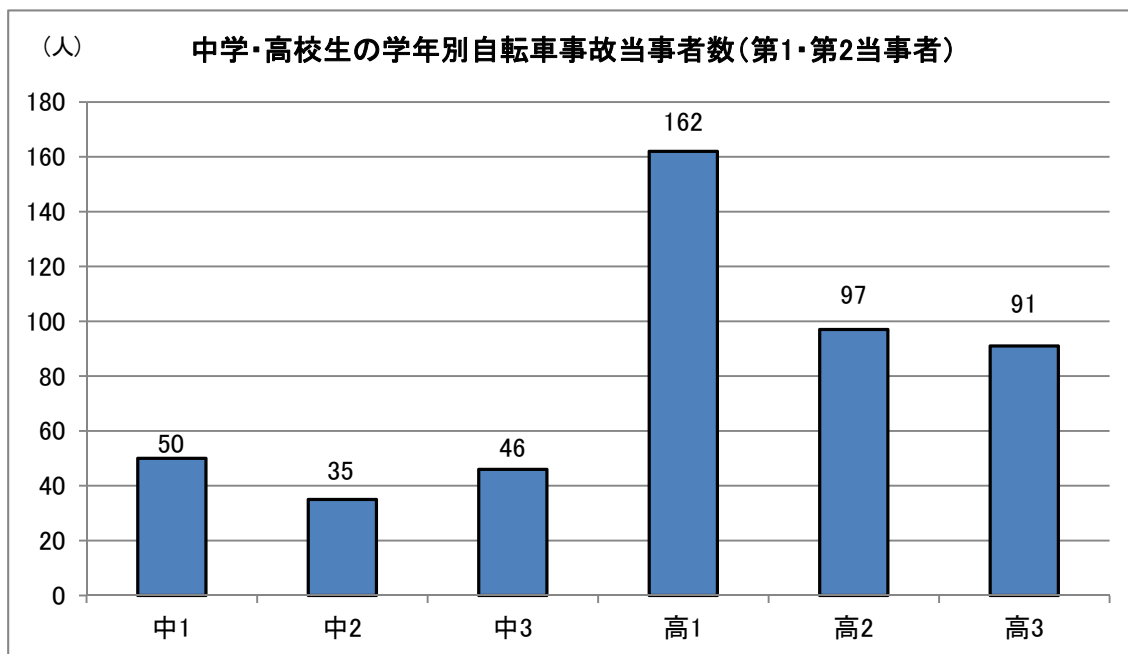
【参考④ 平成30年の世代別人口1万人あたりの自転車事故当事者数】

自転車の交通事故当事者は、全ての世代で10年前と比較し大きく減少しているものの、世代別人口1万人あたりの自転車事故当事者数を比較すると、計画策定時と変わらず、依然、高校生が突出して多く、次いで中学生となっている。



【参考⑤ 中学・高校生の学年別自転車事故当事者数（平成26年～平成30年の合計）】

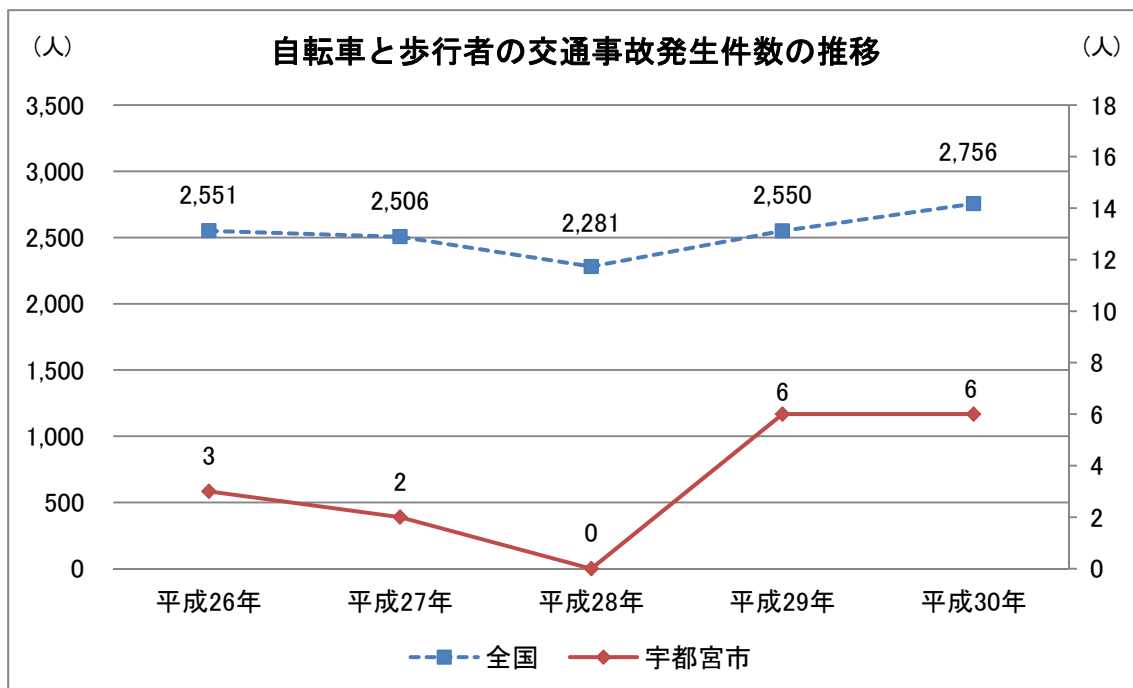
中学では中学1年生、高校では高校1年生の当事者数が多く、特に高校1年生は全体の3割半ばを占めている。



※ 第2当事者・・・交通事故に関係した者のうち、過失が2番目に重い者をいい、過失同等の場合は被害がより重い者をいう。

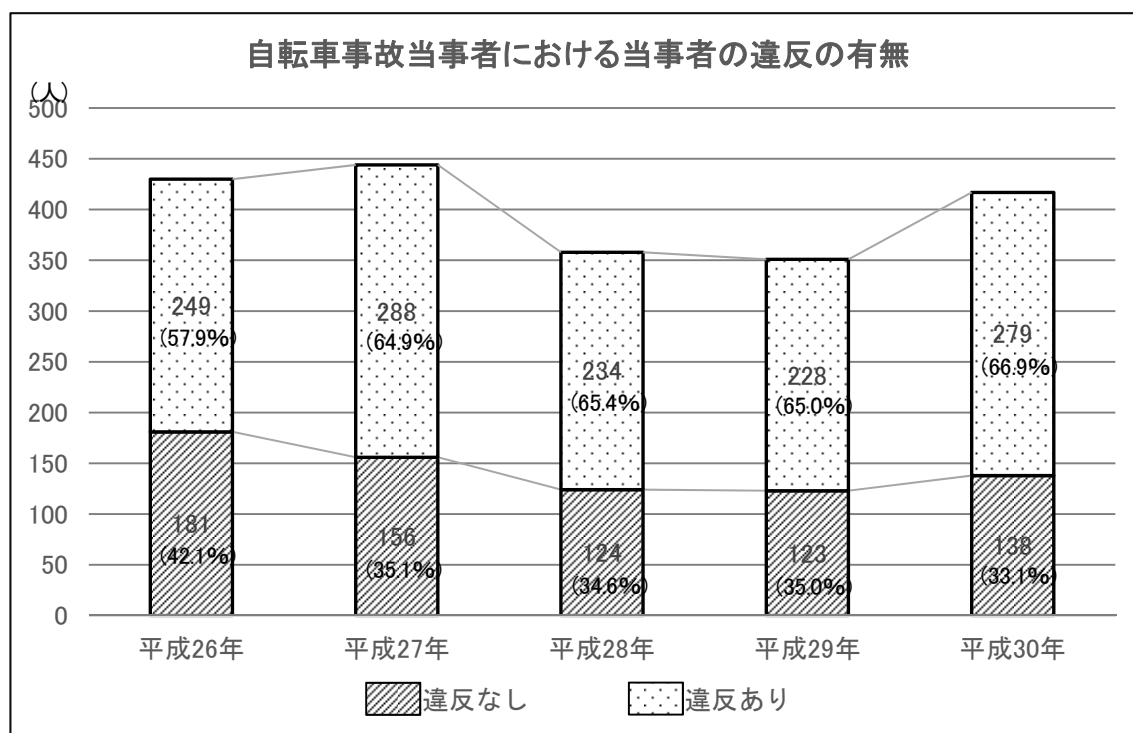
【参考⑥ 自転車と歩行者の交通事故発生件数の推移】

自転車と歩行者の交通事故発生件数は、前年と同数になっている。



【参考⑦ 自転車事故当事者における法令違反の有無】

自転車事故当事者のうち、法令違反があった者の割合は増加傾向にある。



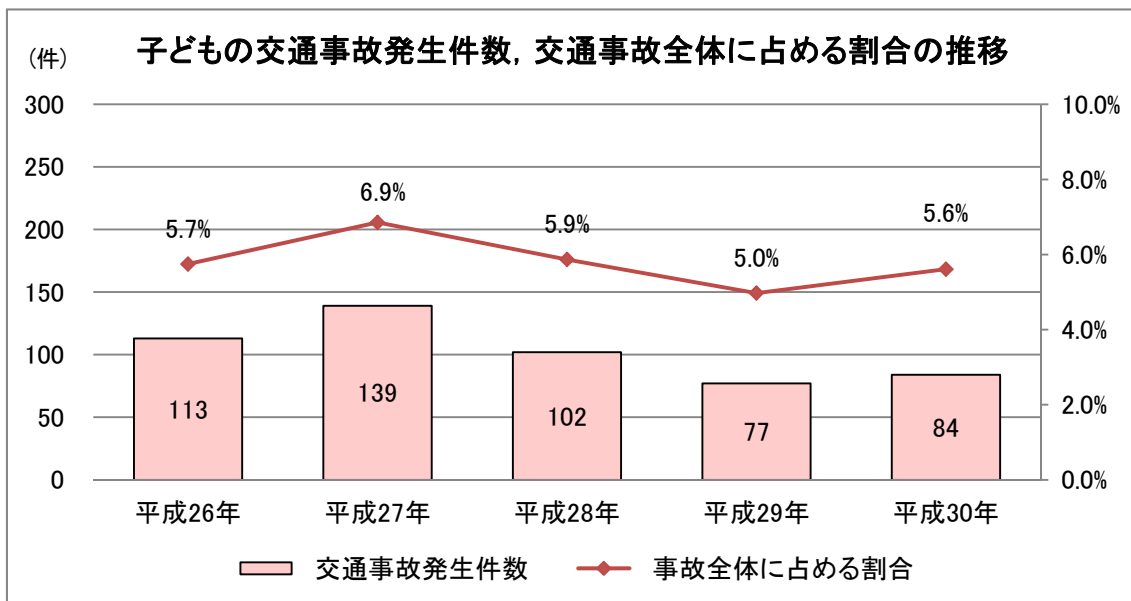
※ 主な法令違反ありの内訳は、「ハンドル操作等不適」、「安全不確認」、「動静不注視」など。

(3) 子どもや高校生の安全確保に係る成果指標

指標名	現状値 (平成27年)	平成29年	平成30年	目標値 (平成32年)	達成率 評価
子どもが関係する 交通事故発生件数	139件	77件	84件	100件以下	119.0% ◎
高校生が関係する 交通事故発生件数	99件	92件	91件	60件以下	65.9% △

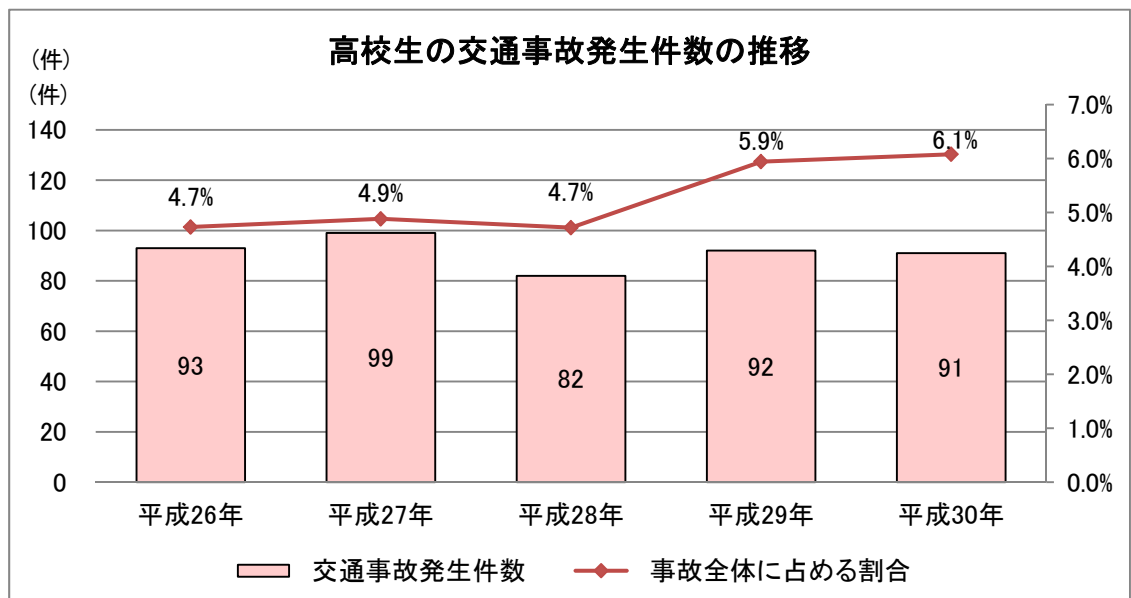
【参考①】子どもの交通事故発生件数の推移

子どもの交通事故発生件数は、総じて減少傾向にある。平成30年の事故全体に占める割合は前年と比較し増加した。



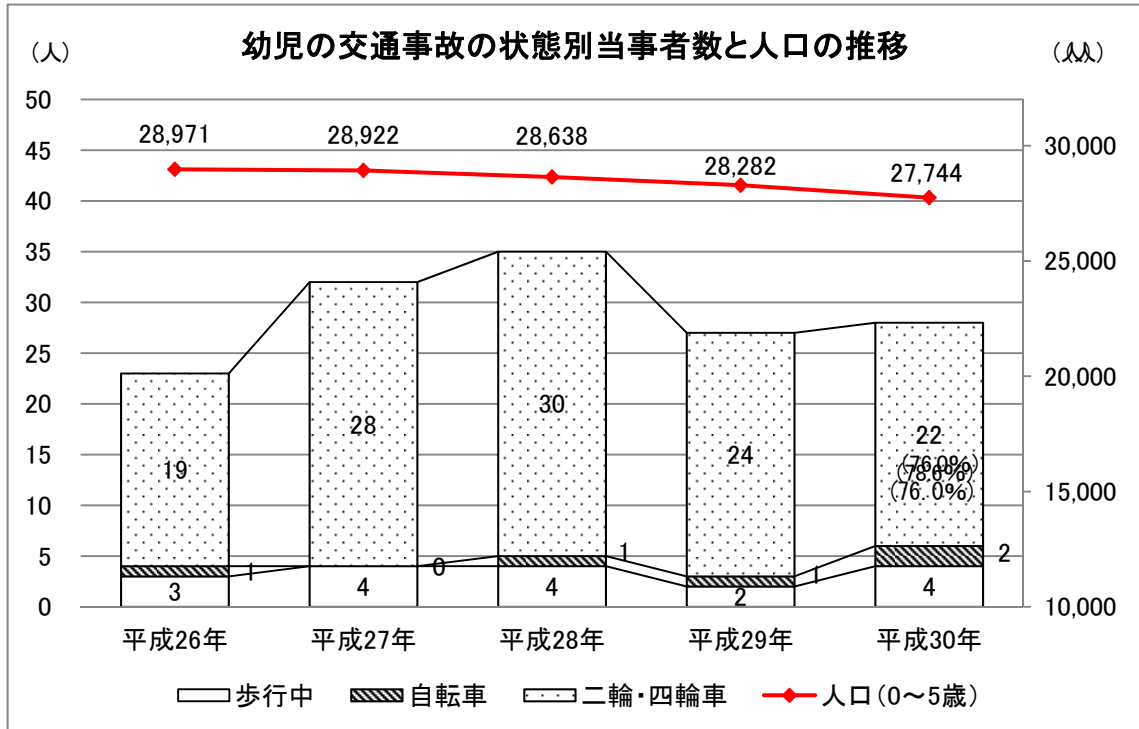
【参考②】高校生の交通事故発生件数の推移

高校生の交通事故発生件数は、横ばい状態である。平成30年の事故全体に占める割合は、前年と比較し増加した。



【参考③ 幼児の交通事故の状態別当事者数と人口の推移】

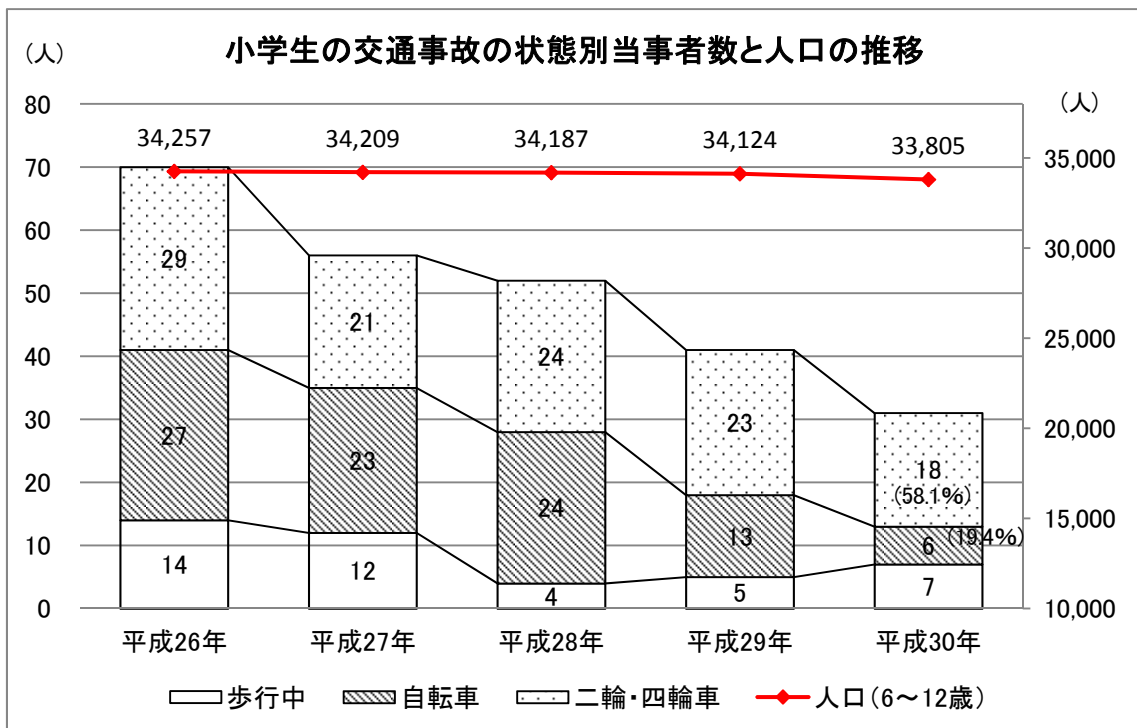
人口は減少しており、当事者数は前年から横ばいで推移している。状態別では二輪・四輪乗車中の割合が約8割を占めている。



※ 幼児・・・0歳～5歳までの者をいう。

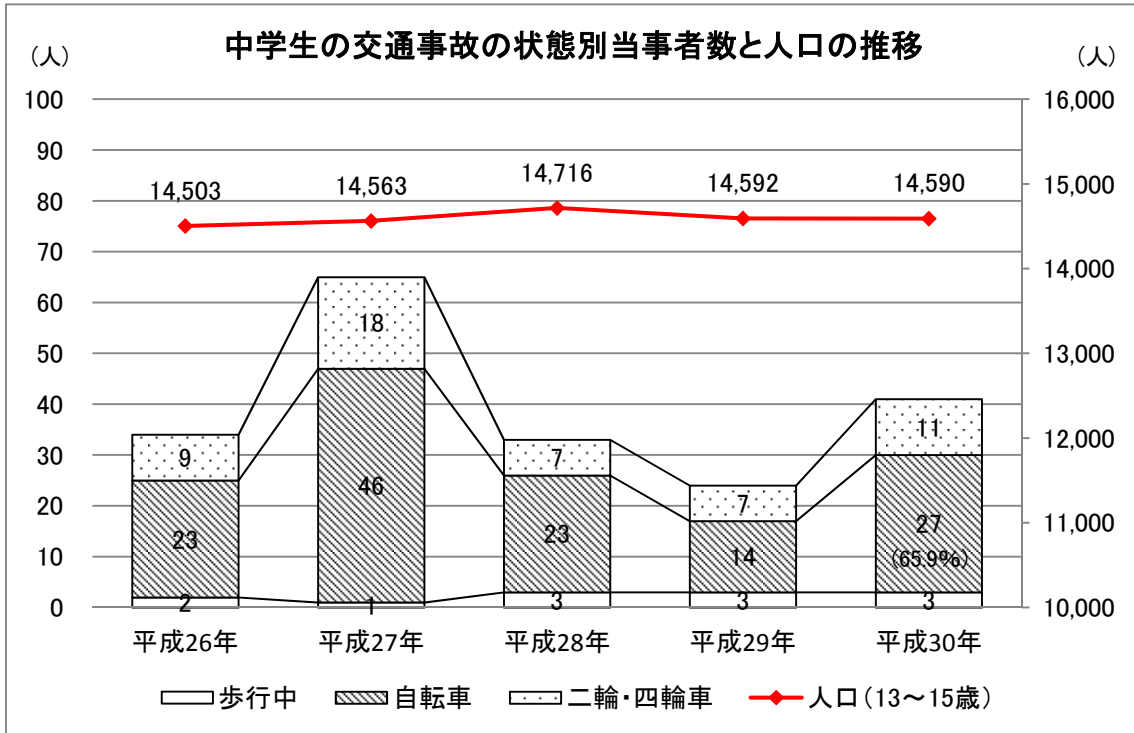
【参考④ 小学生の交通事故の状態別当事者数と人口の推移】

人口は緩やかに減少しており、当事者数も減少傾向にある。状態別では二輪・四輪乗車中の割合が6割弱、自転車の割合が2割を占めており、自転車の事故当事者数は、平成29年と比較して半減した。



【参考⑤ 中学生の交通事故の状態別当事者数と人口の推移】

人口は横ばいであり、当事者数は平成28年以降減少していたが、平成30年は増加した。状態別では自転車の割合が6割半ばを占めている。



【参考⑥ 高校生の交通事故の状態別当事者数と人口の推移】

人口は緩やかに増加しており、当事者数は横ばい傾向にある。状態別では、自転車乗車中が8割強を占めている。

